

1 部門ごとの温室効果ガス排出状況について

(千t-CO<sub>2</sub>)

区分	(基準年度) 2013	2017	2018	2019	2020		(目標年度) 2030	
	排出量	排出量	排出量	排出量	排出量	基準年度比	排出量	基準年度比
産業部門	703	545	615	619	650	-7.5%	396	-43.7%
運輸部門	308	297	299	297	270	-12.3%	200	-35.1%
家庭部門	378	321	279	257	337	-10.8%	142	-62.4%
業務その他部門	206	176	150	143	146	-29.1%	71	-65.5%
廃棄物分野	109	115	120	118	111	1.8%	164	-7.9%
その他分野	69	94	99	106	109	58.0%		
再生可能エネルギー (自家消費型)	-	-	-	-	-	-	-50	-
温室効果ガス	1,773	1,548	1,562	1,540	1,623	-8.5%	923	-47.9%

※ 2020年度は速報値

2 部門別の取組の方向性について

○産業部門

国、兵庫県との連携  
事業者への啓発（業務その他部門も含めて）

○家庭部門

新築はZEH住宅、既存住宅は太陽光発電設備等の導入へ誘導  
（補助金、共同購入、規制的手法など）  
省エネ家電に関する啓発

○運輸部門

次世代自動車の普及、充電設備等のインフラ整備  
（ハイブリッド、プラグインハイブリッド、電気自動車、燃料電池車等）

3 公共施設の取組の方向性について

○公共施設への太陽光発電設備の導入  
初期費用を要しないPPAモデルの活用など  
駐車場のソーラーカーポート設置

○再生可能エネルギー電気の調達

○電気自動車の導入、エコドライブの徹底

○プラスチックごみの減量